



明治維新  
140年記念  
特別展  
The Memorial Exhibition of  
the 140th Anniversary of  
The Meiji Restoration  
The Glory and  
the Gloom of  
The Meiji Restoration

Event  
Information

イベントインフォメーション



↑ 菊花入りの「官軍」指揮旗(萩博物館蔵)

**次回企画展「明治維新と萩」のお知らせ**  
萩博物館では、特別展「明治維新の光と影」の終了後、企画展「明治維新と萩」を開催します。明治維新に活躍する多くの人材を生み出した萩は、「明治維新の地」と呼ばれますが、本展ではその主役的役割の背景に埋もれた影の部分にも迫ります。  
会期：平成20年9月15日(月)～平成21年2月7日(水)  
観覧料：大人1,000円・高校生300円・小学生100円

**ギャラリートーク**  
特別展「明治維新の光と影」の内容について、当館の研究員が解説をいたします。  
場所：萩博物館展示室  
日時：9月17日(水)～9月24日(水)  
10月4日(土)～10月18日(土)・11月1日(土)  
1午後1時から(約1時間予定)  
1午後4時から(約1時間予定)  
定員：約20名(申込不要)  
参加料：無料(別途展示観覧料が必要)



↑ 「長州砲」(英国国立大砲博物館蔵)

**「長州砲」萩帰りの**  
本年は明治維新から140年、日英開戦から150年の節目の年となります。萩市ではこれを記念し、英国に現存する「長州砲」を萩博物館エントランスホールで展示します。里帰りする「長州砲」は、幕末に萩で製造されたもので、元治元年(1864)、長州藩が英・仏・蘭・米四ヶ国との下関戦争で敗れたため、英国に戦利品として持ち帰られました。日本では期間限定で公開されるこの機会に、ぜひご覧ください。

萩(英国国立大砲博物館蔵) Image:TMN Image Archives Source: http://tmn.archives.jp/

The Memorial Exhibition of the 140th Anniversary of The Meiji Restoration  
The Glory and the Gloom of The Meiji Restoration  
明治維新140年記念特別展 明治維新の光と影

会期：平成20年9月15日(月)～11月11日(火) 会期中無休  
前週9月15日(月)～10月13日(月)/後週10月14日(火)～11月11日(火)  
開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
観覧料：大人500円/高校生・大学生300円/小・中学生100円  
【団体割引】20名以上20% [障害者割引] 20%  
駐車場：普通車66台 バス8台

展示品の保護のため会期を前・後期に分け、一部入れ替えを行います。

- JR萩駅よりタクシー：10分
- JR萩山口駅よりバス：70分 (萩バスセンター下車、徒歩25分)
- 萩・石見空港よりバス：75分 (萩バスセンター下車、徒歩25分)
- 萩バスセンターより徒歩15分(バス：萩駅より徒歩70分)
- 中国自動車道小部IC、美祿ICより50分
- 山陽自動車道防府東ICより60分



Hagi Hakubutukan 〒758-0057 山口県萩市堀内355  
TEL 0838-25-6447 / FAX 0838-25-3142  
URL www.city.hagi.yamaguchi.jp/hagihaku/

萩博物館

第5章

「日本の近代化と士族反乱」(一八六七～一八七七年)

近代日本の新しい国づくりはいかなる困難を伴ったのか? 戊辰戦争に勝利した明治新政府は、欧米列強に對する日本近代化に向けて急速な改革を進めます。しかし、欧米列強に對する改革の推進に、内閣院先を主張する藩閥と朝廷派を主張する藩閥とが対立し、征伐戦争が起ります。留守組の離脱後、政府は殖産興業政策を進め、一方、秩禄処分などで士族の権を奪います。維新の勝者であるはずの佐賀・長州・薩摩に、士族反乱が起きた背景を詳しく見ます。

↑ 新政府が各地に掲げた制札(玉穂の掲示) (萩博物館蔵)

↑ 萩の地で戦う前線一翼の軍を描いた録画 (萩博物館蔵)

第4章

「戊辰戦争と萩・会津」(一八六八～一八六九年)

萩と会津の間にいまだ忘れぬ深い溝があるのはなぜか? 武力制藩を目指し、「官軍」の印である御旗を手に入れた薩長藩閥は、島羽伏見戦争の勝利によって中立諸藩を官軍陣に引き入れ、西國一帯を掌握します。これに勢を得た官軍は、江戸へ逃れた将軍慶喜を捕縛すべく、東日本へ兵を向けました。彰義隊との十軒戦争後、萩は東北・北陸各地へ移り、戊辰戦争は箱館(函館)で終結します。反叛戦争中、苛烈な戦況という会津戦争に注目し、萩と会津の関係を考えます。

↑ 会津戦争の激しい攻防を描いた絵巻(第巻八幡宮(岡山県))

↑ 陣中「会津戦争」を描いた録画(萩博物館蔵)

第3章

「朝敵」から「官軍」へ(一八六七～一八六八年)

「朝敵」だった長州藩はなぜ「官軍」となったのか? 長州藩は一八一八政変、禁門の変を経て、幕府側に組した薩摩藩と相容れぬ仲になりました。しかし、その薩摩藩は、藩閥を離れ、幕府に第二次長州藩征討を行うことに反対します。その結果、長州藩は薩摩藩に對し、幕府が第二次長州藩征討を行うことと約束されます。薩長藩閥は討幕に向け画策を行います。将軍徳川慶喜が大挙還を行ったため、幕府を討つという名を失います。討幕の密約及び、御旗の旗が作られた背景に迫ります。

↑ 幕末に薩長藩閥が共同して使用した御旗 (萩博物館蔵) Image:TMN Image Archives Source: http://tmn.archives.jp/

第2章

「幕末維新の戦乱と兵士」(一八六五～一八六六年)

長州藩はなぜ幕府に勝つたのか、また、戦争の実態はいかなるものだったのか? 幕府は朝敵長州藩を征討すべく、二次にわたり朝敵を討つ。長州大軍で攻め寄せます。二次目、長州藩が藩閥を離れ、薩摩藩に對し、幕府に第二次長州藩征討を行うことに反対します。この結果、長州藩は薩摩藩に對し、幕府に第二次長州藩征討を行うことと約束されます。薩長藩閥は討幕に向け画策を行います。将軍徳川慶喜が大挙還を行ったため、幕府を討つという名を失います。討幕の密約及び、御旗の旗が作られた背景に迫ります。

↑ 小倉口の戦いの様子を描いた絵巻(小川忠文氏蔵)

↑ 長州戦争(四境戦争)で使用された輸入銃(小川忠文氏蔵)

第1章

「開国と尊王攘夷運動」(一八五三～一八六四年)

長州藩はなぜ戦いの道へ歩んでいったのか? 米蘭通商条約の締結は、日本を泰西の列強に對する対等の国にすることを結果とせず、開国の道を拒絶し、米蘭通商条約と通商条約を締結させ、しかしながら、朝廷の許可を得る必要があったため、尊王攘夷運動が起るに至ります。朝廷の許可を得る必要があったため、尊王攘夷運動が起るに至ります。朝廷の許可を得る必要があったため、尊王攘夷運動が起るに至ります。

↑ 幕末の日本を代表する人物の肖像 (萩博物館蔵)

↑ 小倉口の戦いで使用された御旗(小川忠文氏蔵)

明治維新140年記念特別展

明治元年(一八六八)、薩長藩閥は「御旗」を振りかざし、開国・東北各地へ攻め上りました。一連の戊辰戦争に勝利した薩長の出身者らは、明治政府を樹立し、新しい国づくりを開始します。これは、日本が近代化を進め、国際社会の一員となつてゆく旅立ちでもありました。しかしその一方で、戦争に敗れた側はもろろん、勝利した側でさえも、多大の犠牲を払わねばならなかったのです。

本展では、まず、「内憂外患」と言われる幕末、長州藩・萩藩がなぜ戦いの道へ歩まねばならなかったのかについて考察します。また、武器や軍装などの遺品を通じて、無名の戦士たちが挑んだ戦争の実態にも迫ります。さらに、近代日本の新しい国づくりには、いかなる困難が伴ったのかについても考えます。一四〇年の節目に本展を「観覧」いただき、明治維新を「暗」の両面から再考していただければ幸いです。

The Memorial Exhibition of the 140th Anniversary of The Meiji Restoration  
The Glory and the Gloom of The Meiji Restoration